

失敗しない! 《スクミノン》《ジャンボたにくん》の使い方

イネに被害を与えるのは水田で越冬したジャンボタニシがメインです! 上手に薬剤を使ってジャンボタニシからイネを守りましょう!
 ※浅水管理(水深4cm以下)及び薬剤散布効果が高めるためにも、ほ場はできるだけ均平にしておきましょう!

《スクミノン》《ジャンボたにくん》薬剤散布のポイント

《スクミノン》《ジャンボたにくん》は、ジャンボタニシが薬剤を食べて体内に吸収されることで効果が発揮されます!

ポイント1 散布のタイミングを見極めましょう!

ジャンボタニシが摂食活動を始めるのは水温が15℃以上になってからです(※1)。

平均気温が15℃を上回る時期以降(※2)、水温やジャンボタニシの活動を確認してからスクミノン等の薬剤(ベイト剤)を散布しましょう。

※ 水温が低く、ジャンボタニシが活動していない場合、薬剤の効果が発揮されませんので注意しましょう!

ポイント2 薬剤散布後少なくとも3~4日は水深3~5cmを保ちましょう!

スクミノン等の薬剤の効果を確実にするため、薬剤散布後少なくとも3~4日は、水深3~5cmに保つようにしましょう!

※ 薬剤が崩壊すると効果はなくなります。薬剤散布後は水の出入りを少なくし、田面を静かに保ちましょう。

ポイント3 食害防止剤との併用には注意しましょう!

食害防止剤(パダン粒剤4等)を先に(又は同時に)使用すると、ジャンボタニシの摂食行動が鈍り、スクミノン等の薬剤の効果が発揮されません。

併用する場合には、食害防止剤の効果が切れてから使用しましょう!【食害防止剤の残効性 パダン粒剤4:1週間程度、スクミハンター:2週間程度】

ポイント4 殺貝効果が発揮されるのは散布後(長くて)7日間程度! 必要に応じて追加散布をしましょう!

1回目の散布7日後に田んぼの様子を見て、活動しているジャンボタニシの密度が高い場合、追加散布を検討しましょう!

密度が低い場合には、水深が深くジャンボタニシが多く生息している箇所を中心に散布しても良いです。

※1 スクミリングガイ防除対策マニュアル(農林水産省、令和2年10月) ※2 図1 田植期前後の日平均気温の推移(山武郡横芝光町、10年平均)



《スクミノン》《ジャンボたにくん》の散布スケジュール

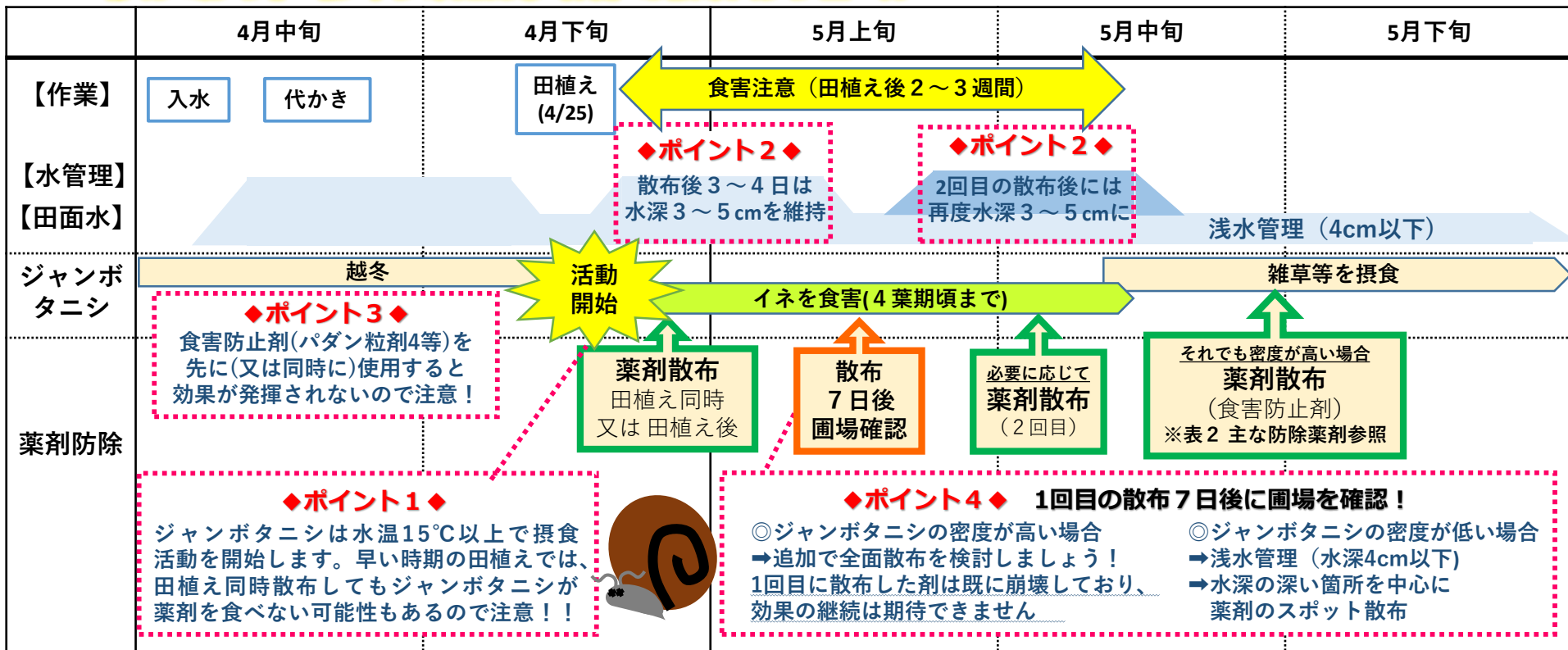


図1 田植期前後の日平均気温の推移

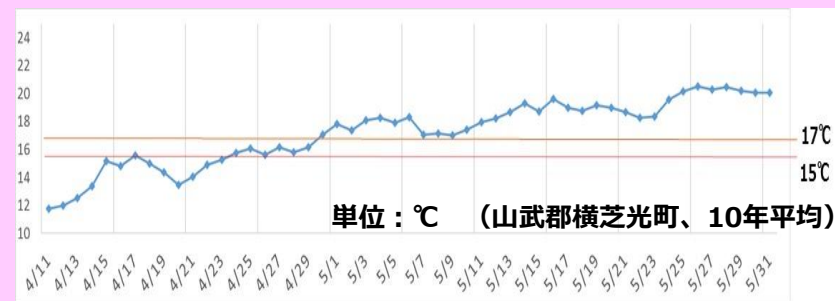


表1 防除基準 入水後、水が澄んでいるときに水田を確認しましょう!

貝の大きさ(殻高)	密度	減収の目安※3	引用元
1.5cm~2cm	2.5頭/m ²	5%の減収	矢野ら、1990
2.5cm以上	2頭/m ²	10~15%の減収	菖蒲、2003
2.5cm以上	2.5頭/m ²	30~50%の減収	

※3 ジャンボタニシ対策をしなかった場合の減収の目安です。

表2 主な防除薬剤 (農薬登録情報は令和3年3月現在)

薬剤名	効果	成分名	使用量	使用時期	使用回数
スクミノン	殺貝	メタアルデヒド	1~4kg/10a	収穫60日前まで	2回以内 ※メタアルデヒドを含む農薬の総使用回数
ジャンボたにくん	殺貝	メタアルデヒド	1~2kg/10a	収穫60日前まで	
スクミンベイト3	殺貝+食害防止	磷酸第二鉄	2~4kg/10a	発生時	-
スクミハンター	食害防止	チオシクラム粒剤※4	1~2kg/10a	収穫45日前まで	3回以内
パダン粒剤4(苗箱処理剤)	食害防止	カルタップ塩酸塩※4	60~100g/箱	は種前又は移植当日	1回

※4 パダン粒剤4を使用した場合には、チオシクラム又はベンスルタップを含む剤は使用しないでください(メーカー作成資料より抜粋)。